

## 巻 頭 言

『異文化経営研究』第14号発刊にあたって

『異文化経営研究』(Transcultural Management Review) 第14号を発行することができ、誠にありがたい。本号には、レフリーによる査読を経て選ばれた研究ノート3篇に加えて、招聘論文1篇と研究大会の講演抄録が1篇、講演録1篇が掲載されている。発行に至るまで多大なご尽力をいただいた執筆者や編集者をはじめ、関係者の皆さまに心より御礼を申し上げる。

2003年3月にわずか30名の研究会としてスタートした本学会は、現在では400名を超える会員を擁する規模にまで成長し、日本学術会議の協力学術研究団体として認められ、さらに経営関連学会協議会のメンバーとなり、最近では日本経済学会連合への加盟も認められている。日本学術会議には、経済学分野の会員や連携会員が多く、経営学の会員や連携会員は相対的に少ない。ビジネスや企業という、刻一刻変化しているものを対象としている経営学が学問としての地位をさらに強化することが今こそ求められているのではないだろうか。そのためには、優れた論文を世に出すことが必須である。その意味でジャーナル(学会誌)の果たす役割は大きい。投稿者がもっと増えること、そして内容がさらに充実することが大切であろう。また投稿者にははじめから研究ノートとして執筆するのではなく、研究論文として投稿するくらいの気概があってほしい。海外のジャーナルのレフリーをする機会に感じることは、採択される確率が低いにもかかわらず、果敢に挑戦する研究者が多いことである。もちろん海外、特に欧米と日本とは環境が異なるが、日本の経営学関連学会が世界に伍して行くには、論文で勝負し切磋琢磨することが必要ではないだろうか。

さて、異文化経営学会は、研究大会に加え、インターナショナルセッション、中部部会、関西部会、九州部会、北陸部会と、活動の輪がますます広がり、会合の回数も多くなってきている。そこで、設立以来、年3回行ってきた東京での研究大会は、2017年度から半年に一回、つまり年2回にすることになった。ご理解をいただければ幸いである。

ますます複雑化する世界にあって、「対立観」でなく「一体観」で、「和」をもって事に当たり、様々な価値観を受容し、傾聴し、共感することができるように、会員の皆様とともに歩んでいきたいと切に願っている。

今後ともご支援を賜りたく、お願い申し上げます次第である。

2017年12月  
異文化経営学会 会長  
馬 越 恵 美 子